揖斐川森林だより ～これからの森林づくりのために～

【第18回】「揖斐での森林づくり～太い木を育てる間伐」（揖斐川町森林づくり推進会議事務局）

揖斐での森林づくり ～太い木を育てる間伐～

去る2月24日に開催された「これからの森林づくり」森プロ現地研修会では、雨の中54人の参加者が集まり、谷汲森プロの実施状況を見ていただくとともに、森林研究所の研究員の方に、実際のデータに基づいて「揖斐での森林づくり」をテーマに説明してもらいました。今回の紙面では、その内容をお伝えします。

◆ 森林研究所　説明内容 ◆

揖斐地域のスギ・ヒノキの森林は、県全体より約10年程若く、今後、樹齢が高い木が生えた森林を育てていくことは、木材生産や環境保全の面から見て大変良く、太い木ばかりの明るい健全な森林を育てるためには、間伐がますます重要です。そして、間伐の方法や、その後の成長を左右するのは、光合成を行う「葉っぱの量」が決め手です。

「葉っぱの量」は、「樹冠長」で示され、「葉っぱ」が多いと間伐した後、木は太くなりやすいです。（詳細説明は以下図のとおり）

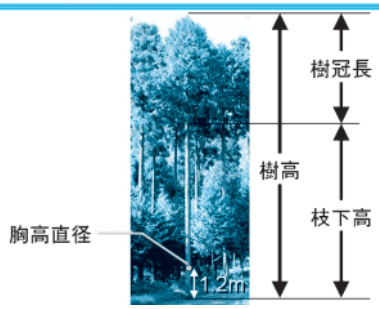
スギやヒノキ等の人工林は、ある程度の密度で管理しないと、樹高のある太い木になりませんが、混みすぎると暗くて細長い木ばかりになってしまいます。

ですから、太い木ばかりの明るい健全な森林を育てるためには、若いうちに、形質不良木は取り除き、早めに間伐を行うことが必要です。揖斐の森林は若い森林が多いため、これからそのような森林づくりをすることは有利です。

① 樹冠と幹の太さの関係

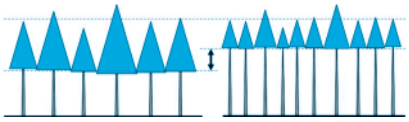
樹冠が大きい。
↓
葉っぱの量が多い。
↓
稼ぎ（光合成）が多い。
↓
幹が太くなる。

② 用語の説明



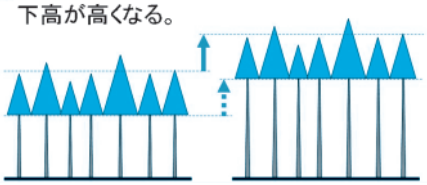
③ 枝下高の決まり方

- 林の込み具合＝隣接木との間隔で，樹冠の大きさが決まり，枝下高も決まる。
- 込んだ林ほど，樹冠が小さく，枝下高が高くなる。



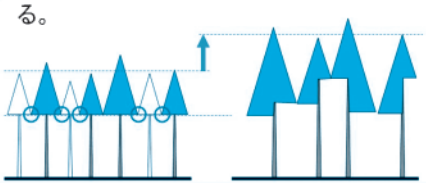
④ 林の込み具合と枝下高

- 本数密度（込み具合）が同じなら，同じ大きさの樹冠にしかなれない。
- 間伐しなければ，樹高が伸びた分だけ，枝下高が高くなる。



⑤ 間伐と枝下高

- 間伐で隣接木との間隔があくと，その分だけ，枝が伸びる。
- 枝が枯れなかった分だけ，樹冠長が長くなる。



⑥ 林齢と間伐効果

- 樹高成長を続けているうちは，間伐効果（直径成長の促進）が期待できる。
- 肥えている場所ほど，間伐効果が高い。
- 若いときの間伐ほど，間伐効果が高い。
- 若いときに形質不良木を間伐しておくと◎。

【お問い合せ先】森林林業について、また、補助制度の採択要件や間伐のご相談等、お気軽にお問い合わせください。
揖斐川町農林振興課（TEL 22-2111）・揖斐郡森林組合（TEL 22-6511）・揖斐農林事務所林業課（TEL 23-1111）